



神奈川第6地区研修会

「シノドス」と「霊における会話」～ともに歩む教会を日ざして～

2026年1月17日(土) 10時～12時@カトリック平塚教会

- 10:00～10:45 「シノドスと霊における会話」
10:45～11:45 霊における会話の実践：「講話の内容で心に響いたこと、自分の小教区で生かしてみたいこと」
11:45～12:00 全体会：発表（各グループ1分以内）と質疑応答
12:00 終了

シノドスとは？：

「シノドス Synodos」は、もともとギリシア語で「ともに」を表す $\sigma\nu\nu$ (シン) と「道」を表す $\acute{o}\delta\acute{o}\varsigma$ (オドス) から成り立っているため、「ともに歩む」を意味します。

「世界代表(シノドス)司教会議 Synodus Episcoporum」は、信仰や倫理、教会活動全般に関する事柄について、世界から代表の司教、場合によって司祭、奉獻生活者、信徒が集まって話し合い、助言を提案して教皇を補佐するカトリック教会の集まりです。何年かおきにおこなわれます。

決定機関ではなく、教皇の諮問に答える文書をまとめ、教皇は多くの場合、使徒的勧告の形でその答申に答えます。

シノドス会議は、1965年、教皇パウロ六世によって設置されました。

前教皇フランシスコの呼びかけで、2021年から2024年にかけて、世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会がおこなわれました。

—第15回シノドスから第16回シノドスへ：

階段講義室風の椅子、位階順の席順からみんなで囲む円卓へ

通常3週間半ほどおこなわれたものから、3年(2021年から2024年)かけておこなわれました。

—第16回シノドスの歩み

1. シノドスの呼びかけ(2021年10月)
2. 「教区フェーズ」ステージ(2021年～2022年)
3. 「大陸ステージ」アジア大陸別ステージ(2023年)
4. 第16回シノドス総会第1会期(2023年10月)
5. 第16回シノドス総会第2会期(2024年10月)



—第16回シノドス：

- ・シノドス準備委員会において、委員7名のうち弘田静枝修道女（ベリス・メルセス宣教修道女会）が唯一聖職者以外から選出
- ・シノドス参加者総勢約400名。そのうち投票権保有者が教皇を含め365名。そのうち司教ではない総会メンバー70名に投票権が与えられました。そのうち54名が女性。
- ・第15回までは枢機卿のみが担っていた議長代理に、初めて女性2名が任命されました。そのうちの一人が西村。第16回シノドス議長代理は、9名。コプト・カトリック教会シノド会長（エジプト）や、枢機卿、大司教、司教、司祭、修道女が任命されました。議長代理は、シノドスの議長である教皇の代わりに会議運営をおこないます。

—第16回シノドス：

- ・テーマである、「シノドス（ともに歩むこと）」そのものについて話し合いをおこないました。
- ・その話し合いのすべてが「霊における会話」の手法で進められました。
- ・カトリック教会の文書（第1会期『討議要綱』32項）は、「霊における会話」を「シノドス的（ともに歩む）手法」と呼んでいます。

なぜ2021年から2024年までの長い期間をかけておこなわれたのでしょうか？

→教皇がすべての人の意見を聞きたかったから。そのため、すべての人にシノドスのプロセスの参加を呼びかけました。

とくに2021年から2022年にかけておこなわれた「教区ステージ」において、小教区レベル、共同体レベルでの意見聴取がおこなわれました。コロナ禍ということや、一部の小教区や教区ではそんなに積極的におこなわれなかったこともあり、わたしを含め多くの方は、このような意見聴取がおこなわれていたことも知らなかった方も多いようです。

しかし、教皇が「すべての人の意見を聞きたかった」というときに、これはカトリック教会に積極的に参加している人だけではなく、さまざまな理由で教会から離れてしまった方々、教会に傷つけられた方々、教会に批判的な方々、まったく興味のない方々など、本当にできるだけ多くの方の意見を聞いてほしい、ということでした。教皇は、「どのようにしたら、カトリック教会はよりすべての人とともに歩むことができると思いますか？」「誰も排除せずに、どのようにしたら、すべての人とともにより歩んでいくことができると思いますか？」ということについて、本当に多くの人の意見を聞きたかったのです。そのために、長い期間かけておこなわれました。

この出来事は、多くの時に「14億人の意見聴取」と呼ばれています。カトリック信徒が全世界に14億人いるからです。

パワーポイントの上にあるのは、今回のシノドスのテーマのロゴです。老若男女がいます。先頭に子ども、次に車いすに乗った方、修道女、親子、高齢者の方、教会の牧者と思



われるミトラをかぶり、杖を持った方、若者と順に描かれています。

この姿こそ、教会の本来の姿である「すべての人とともに歩む」姿なのではないでしょうか？先頭に立っているのは、牧者ではなく、子ども、障害者の方です。ともに助け合い、学び合い、ともに歩いていく姿こそ、「希望の巡礼者」として、ともに歩む教会へ向かってわたしたちがめざしていく在り方なのではないでしょうか。

シノドス第2会期と最終文書

—シノドス第2会期テーマ：宣教するとともに歩む教会となるには

教会は、内向きで信じている人たちだけの集まりではなく、神の愛を生き様とおして証し、伝えるための集まりです。神の愛を生き、告げ知らせる教会となるには、どのような構造、意識改革が必要か、ということについてテーマごとに具体的な話し合いがおこなわれました。話し合いの集大成として最終文書が作成されました。

—最終文書：「わたしたち」神の民に加わった教皇

シノドス後の使徒的勧告を公表せず、最終文書をそのまま採択。「最終文書」は、これまでの「シノドス後の使徒的勧告」に代わる教導職の公式文書となります。

教皇が自ら文書を書かずに《最終文書》をそのまま採択する、ということは、実に大きな意味があると思います。教皇は自分自身もわたしたち「神の民」の一員として、14億人の意見聴取からすくい上げ、神の民が、ともに神さまの望みがなんであるのかをともに聞き、ともに祈り、ともに見極め、識別したものをなにも修正や加えることなく「自分のもの」とされたのです。

このことは、これからの教会の歩みを大きな示唆を与えていると思います。

これから

地方教会におけるシノドス流の教会づくりの具体的な実施の要請

「最終文書」に記されていることを、世界中の教会で具体的に実施に移し、その成果を、2028年10月にバチカンで開催されるエクレシアル・アセンブリー（教会総会）で評価し合うこととなります。

エクレシアル・アセンブリー（教会総会）に向けて、何か追加で特別なことをする、というよりも、すでにともに歩んでいるわたしたちの教会が、より「ともに歩む」ようになるための期間だと思います。

「すでに実施していること（すでに「ともに歩む」ことができていること）」「実施したいけど、できていないこと（「ともに歩む」ことが十分に実現できていないこと）」そして「実施するように呼びかけられていること（より「ともに歩む」ように呼ばれていること）」を各信仰共同体で祈り、話し合い、共有することで、お互いに学び合い、励まし合えるために、わたしたち一人ひとりの協力が必要です。

具体的な取り組み

—2026年1月より12月まで：各信仰共同体レベル



2026 年復活祭の頃：手引書「みんなでつくろうシノドスの教会」（仮称）の発行。この手引書を参照にしながら、それぞれの信仰共同体で、

- ・「すでに実施していること（すでに「ともに歩む」ことができていること）」
- ・「実施したいけど、できていないこと（「ともに歩む」ことが十分に実現できていないこと）」
- ・「実施するように呼びかけられていること（より「ともに歩む」ように呼ばれていること）」

を祈り、話し合い、共有し、その結果を各教区のシノドス担当者に提出（2026 年 12 月まで）。

－2027 年 1 月より 6 月まで：教区レベルでの評価集会（教区のシノドスのつどい）

－2027 年 7 月から 12 月まで：全国レベルでの評価集会（日本のシノドスのつどい）

－2028 年前半：大陸レベルでの評価集会

第 16 回シノドスの「最終文書」は、キリスト者が神の民であり、信仰の感覚を与えられており、さらには洗礼によって宣教を生きるようにと召されおり、洗礼から生まれるミッション（使命）が、宣教へとつながっている、ということを明確に述べています（22 項）。そして、洗礼から生まれるシノドス流で宣教する教会、三位一体の神秘の中にその起源と目指す先がある、と述べています（15 項）。

シノドスの歩みがめざしているもの：「わたしたち」の文化とプロセスの大切さ

洗礼によって、キリスト者であるわたしたちはみんな神の愛を証し、告げ知らせるように招かれている宣教者です。わたしたち一人ひとりが宣教者なのです。誰もが、わたしたちの教会がすべての人とともに歩む教会になるための責任を担っています。

ともに歩むシノドス的な教会がめざしているものは、「『わたしたち』の文化」なのではないでしょうか？教会の使命にすべての人が積極的に参与すること、すべての人とともに歩みながら、神の民であるわたしたちが、神の民になる歩み、兄弟であるわたしたちが、兄弟になる歩み、宣教者であるわたしたちが宣教者になっていく歩みなのではないでしょうか？

そのためには、一人ひとりの物語が語られ、意見が尊重され、皆でともに神さまの望みを探し求めていくプロセスが大切だと思います。

前教皇フランシスコは、第 16 回シノドス総会第 1 会期の閉会のときに、次のように語り、プロセスの大切さを強調しています。

「この集いは『ともに歩む（シノドス）』ことについてであり、他のあれこれのテーマについてではありません。……重要なのは、考察する方法、つまりすべての人とともに、だれも排除せずに、ともに歩む（シノドス的）方法です」。

そのためには、信徒、奉獻生活者、司祭、司教といった立場を問わず洗礼を受けたキリス



ト者であるわたしたち一人ひとりの積極的な参与、協力が欠かせないのです。

新教皇レオ 14 世 最初の挨拶

「全世界の兄弟姉妹の皆さん。わたしたちはシノドス的な教会になることを望みます。それは、道を歩む教会、常に平和を求め、常に愛の業を求め、とくに苦しむ人に常に寄り添うことを求める教会です」

「会話」を取り入れ、話し合い、合意形成を推進するカトリック教会

「霊における会話」の「霊」は英語に言い換えると、大文字で Spirit です。大文字の S が使われる場合、三位一体の神の「聖霊」のことを意味します。

この手法は、テーマに沿って発言し、積極的に聞くこと、沈黙その間に取り入れること、グループ内にあると感じる見落すことができない声（良心、神さまの息吹、聖霊の導き）の見極めを数ステップ（通常は 3 ステップ）おこなうことを特徴とする、グループ対話、分かち合いです。

現在カトリック教会は、この手法は「一つの手段であり、限界はあるにせよ、…多くの実りをもたらします。この実践は、喜び、驚き、感謝を生み出し、個人、グループ、そして教会を変容させる刷新の歩みとして経験され」《最終文書 45》るものとして積極的に用いています。

「霊における会話」の実際

「霊における会話」の通常 3 つのステップは、「わたし (I)」、「あなた (You)」、「わたしたち (We)」のステップがあります。

まず沈黙のうちに個人的に与えられたテーマに対しての自分の答えについて思い巡らし、準備をすることから始まります。その後、グループのメンバーの一人ひとりがその時間に得られたことを分かち合い、その発言を一人ひとりが注意深く聞くことに専念する「発言し、聞く」第 1 ステップ（「わたし (I)」）をおこないます。

全員の発言後、沈黙のうちに思い巡らす時間があります。このときに、グループのメンバー一人ひとりが第 1 ステップで聞いたことで心に浮かび上がったこと、その中でもっとも響いたこと、抵抗を感じたこと、大きな課題と感じたことについて思い巡らします。

そして沈黙のうちに思い巡らしたことを一人ひとりが分かち合う、「他者と神にスペースを開く」第 2 ステップ（「あなた (You)」）をおこないます。全員の発言後、グループの発言を聞く中で浮かび上がったことをふり返りながら、グループとして導かれていると感じる重要なポイントについて、沈黙のうちに思い巡らした後に第 3 ステップをおこないます。

第 3 ステップは、グループ内にあると感じる見落すことができない声（良心、神さまの息吹、聖霊）の導きのもとに、グループとして浮かび上がった一致している部分、一致しが



たい部分や新たな発見等、重要なポイントを明らかにして、ともに合意形成をおこないます。

この手法は、すべての人に開かれたもので、みなが同じテーマについて、同じ発言時間が与えられ、同じテーブルで真摯に見落とすことのできない大切な声、聖霊を主役にして神の望みは何であるかを探し求めるものです。与えられたテーマについて自分の意見を発言する、というよりは、まず自分が聖霊の導きを願いながら祈ったことを発言します。与えられたテーマについてただ頭で考えるのではなく、心の中で問いかけながら、頭と心の両方を使い、正直な気持ちと率直な思いも大切にして発言します。

そして、グループのメンバーの人の発言に敬意をもって聞き、その発言のうちに聖霊が語りかけていることを探し、最終的にはグループとして聖霊がどのようなことを語ってくれているかをみなで話し合い、合意していくものです。話し合いの間に取り入れられている沈黙の祈りは、グループのメンバーから聞いたさまざまな意見、時には自分の考えとは異なる意見についての自分の考えや感情について整理することができ、また信仰のまなざしに立ちかえり、開かれた態度を与えてくれます。

カトリック教会では、このようにさまざまな立場の人が同じテーブルで分かち合うことは、これまでほとんどなかったと思います。そのため、お互いが理解し合えず、お互いに傷ついている側面もあるように思います。この手法を実践しながら、実際に様々な現場で取り入れることによって、少しずつわたしたちがよりよい共同体、「ともに歩む（シノドス的）」存在になっていくのではないのでしょうか。

「霊における会話」はわたしたちに、自分の目の前にいる人の話を敬意をもって「聞く」こと、自分も発言し最後まで話を聞いてもらうこと、たとえ意見が異なっても「尊重しながら賛成しない」やり方を学ぶことを教えてくれていると思います。また、沈黙のうちに思い巡らす時間を設けることによって、自分の考えや感情について立ち止まる時間が与えられ、そして相手のことも考える時間が与えられ、ある種の「アンガーマネジメント」の効果もあるように思います。

また、この手法は話し合いのやり方にとどまらず、人々とのかかわりのなかでの大切な態度、あり方のように思います。とくに身近な人とのかかわりにおいて、相手の話を最後まで聞かずに話をさえぎって自分が話したりするとき、賛成しない意見を聞くときなど、「我」がでるときに、聞くこと、内的な沈黙のうちに大切な何かを探し求めながら、かかわりをもつことは、わたしたちが人として本質的に大切な生き方のように思います。

1. 「分かち合い」と何が違うのか？
2. 教区、地区、小教区で「霊における会話」をする理由・意義
3. 本当に「霊における会話」で合意形成や教会の方向性を決定することができるのか

(共同識別について) ?

「霊における会話」第3ステップをていねいに :

第16回シノドス総会第2会期では、「最終文書に何を載せるのか」ということが総会の一つの大きな目的でした。そのため、霊における会話での話し合いでは、第3ステップをていねいにおこないながら、合意形成をしていきました。

第3ステップをていねいにおこなう、合意形成を目指した「霊における会話」では、第1ステップと第2ステップをおこなった上で、話し合いの人数が多い場合等は、休憩をはさみ（もしくは別の日に）第3ステップをおこなうことが勧められています。

そして合意形成のために、第3ステップをていねいにおこなううえでもなお、一度の「霊における会話」では合意形成が十分に得られない場合や、意思決定が難しい場合に、もう一度「霊における会話」をおこなうことが勧められます（『シノドスハンドブック』p.18の「あきらめないところ」を参照してください）。こういった場合は、第1ステップから再度おこないます（前回の話し合いの合意形成を踏まえた上で、問いかけについて祈ったことについて発言します）。

4. 「みんなファシリテーションのエキスパートであり、素人」

まとめ

「霊における会話」参加者シート

テーマ：「講話の内容で心に響いたこと、自分の小教区で生かしてみたいこと」

<第1ステップのために・個人の準備> テーマについて沈黙のうちに思い巡らす中で、心に残ったことをここに書きとめましょう。ただ頭で質問について考えるのではなく、心の中で問いかけながら、頭と心の両方を使い、正直な持ちと率直な思いを大切にしながら、この問いに答えましょう。(10分)



第1ステップ：「発言し、聞く」 1人最大3分

一人ひとりが思い巡らし、得られたこと、書きとめたことを発言し、それを小グループにいる一人ひとりが注意深く聞くことに専念するときです。聞き取れない言葉について質問することが出来ますが、相手の語った内容について、コメントや賛否を述べることをしません。一人ひとりが語っていることに敬意を表しながら、受けとめましょう。分かち合いの時間は一人最大3分です。

<第2ステップのために> 沈黙のうちに思い巡らします

沈黙のうちに第1ステップの発言を振り返りましょう。

第1ステップでグループの一人ひとりの語りを聞く中で心に浮かび上がったこと、その中でもっとも響いたこと、抵抗を感じたこと、大きな課題と感じたことや聖霊が働いていると感じたことについて、沈黙のうちに祈り、思い巡らしましょう。(2分)

第2ステップ：「他者と神にスペースを開く」 1人最大2分

第1ステップでグループの一人ひとりの語りを聞く中で心に浮かび上がったこと、その中でもっとも響いたこと、抵抗を感じたこと、大きな課題と感じたことや霊が働いていると感じたことについて、祈り、思い巡らしたことを発言しましょう(一人最大2分)



質問の時間：グループのメンバーすべてが発言し終わってから、もし、内容について確認したい点や情報として明確にしておきたい点などがあつたとすれば、時間を設けて質問をしましょう。発言の時間制限や祈りの雰囲気は、グループ内で大切に守りましょう（3分前後、なければ第3ステップに進みましょう）。

<第3ステップ a のために> 沈黙のうちに思い巡らします

沈黙のうちに第2ステップの発言を振り返りましょう。聖霊はわたしたちのグループにどのようなことを語りかけてくれたのでしょうか？

聖霊がグループに強く語りかけたと感じること、見落としてはいけないこと、新たな発見、そして新たな一歩を踏み出すように呼びかけられているものは何でしょうか？沈黙の祈りのうちに思い巡らしましょう。付箋一枚につき一つのポイント、言葉・文章を書きましょう。（2分程度）

第3ステップ：「ともに形づくって」

第3ステップ a：沈黙の祈りのうちに思い巡らした、聖霊がグループに強く語りかけたと感じること、見落としてはいけないこと、新たな発見、そして新たな一歩を踏み出すように呼びかけられているものについて付箋に書かれているものを読み上げ、A3の紙に貼りながら発言しましょう。（一人1分半程度）

・第3ステップ b のために：第3ステップ a においてグループのメンバー一人ひとりの発言を聞き、付箋に書かれたものを見ながら、聖霊が強くグループに語りかけたと感じること、見落としてはいけないこと、新たな発見、そして新たな一歩を踏み出すように呼びかけているものは何だと思えますか？（2分程度）

・第3ステップ b：沈黙のうちに祈り、思い巡らした、聖霊が強くグループに語りかけたと感じることについて発言し、ともに見極め、合意形成をしていきましょう。（自由に発言。5分程度）

・第3ステップ c/発表の準備：わたしたちのグループがともに見極め、合意形成した事柄について何を発表するのか、誰が発表するのかグループで話し合しましょう。各グループの発表の時間は1分です。

全体会：発表と質疑応答

<感謝のための終わりの祈り>

霊における会話

シノドス的教会における風別のダイナミズム

